

第3学年英語科学習指導案

日時 平成26年11月7日(金) 6校時

対象 3年5組 男20名、女15名 計35名

指導者 佐藤 奈未

1 単元名 PROGRAM 7 What Is the Most Important Thing to You?

2 単元の目標

英語科の目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

- (1) 進んで英語の授業に取り組もうとしている。
- (2) 関係代名詞(主格)を用いて、どのような人やものか説明する。
- (3) 関係代名詞(主格)が含まれた英文を読み、どのような人やものか理解する。
- (4) 関係代名詞(主格)を用いた英文の構造を理解している。

3 単元の評価規準

観 点	B:おおむね満足できる
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	進んで授業に参加し、積極的にペアワークや発表などに取り組もうとしている。
外国語表現の能力	関係代名詞(主格)を用いて、どのような人やものか説明することができる。
外国語理解の能力	関係代名詞(主格)が含まれた英文を読み、どのような人やものか理解することができた。
言語についての知識・理解	関係代名詞(主格)を用いた英文の構造を理解している。

4 単元について

(1) 生徒について

本学級は、落ち着いた授業態度であり、話の聞き方、ノートの取り方など基本的な姿勢が整っている。ペアワークやグループワークは、誰とでも積極的に取り組むことができる。特に、男子は場面に即した言語活動を好み、女子は英作文など「書く」活動を好む傾向がある。その反面、学力分布の状況として上位層と下位層の二極化の傾向にあり、学力差は大きい。約2年半の英語学習が過ぎた今、言語活動は楽しんで取り組むものの、文法や音読、英作文などに困難を感じ始めている生徒も少なくない。また、間違えることに対する抵抗感がやや強い。

学習する言語材料の導入場面では、口頭練習や問題練習を多く繰り返し行った上で、生徒自身が正しい語順に気をつけながら、テーマに即した表現活動を行う力をつけさせたい。

(2) 教材について

言語材料としては、関係代名詞(主格)の **who**、**which**、**that** を取り扱う。複文や後置修飾と言った文法事項を伴っており、生徒にとっては難易度の高いものだと思われる。しかし、複数の単文ではなく、関係代名詞を用いた文を習得することによって、既習事項を生かしながら、人や

ものについて詳しく説明する高等な表現を生み出すことができ、表現の幅を広げることができる。授業では、全体での練習を多く行ったり、写真や図などの視覚的な具体物を使用したりしながら、生徒が楽しみながら知識を定着させていくよう指導したい。

名詞を後ろから修飾する形として、前単元では現在分詞と過去分詞を用いた後置修飾を学習している。既習表現を含めて、後置修飾を2つに分類すると、

①名詞を修飾する語句：「前置詞＋語句」「不定詞」「分詞（現在分詞・過去分詞）」

②名詞を修飾する文：「関係代名詞（who、which、that）」「接触節（which、that）」となる。名詞（先行詞）と修飾語（部）の置き方は、日本語と英語では決定的に異なるため、今まで「前置詞＋語句」「不定詞」「後置修飾」と同様に視覚的に説明する必要がある。

また、今回は関係代名詞の主格を学習するが、本教科書では、先行詞が「人」の場合は who を、「もの」の場合は which または that を使用している。that は、先行詞が「人」でも「もの」でも使用できるが、「人」の場合はだいたい who を使うことにも簡単に触れたい。本単元では、節や文の語順はもちろんのこと、先行詞に重きを置き、次単元で扱う関係代名詞の目的格・接触節へつなげたい。

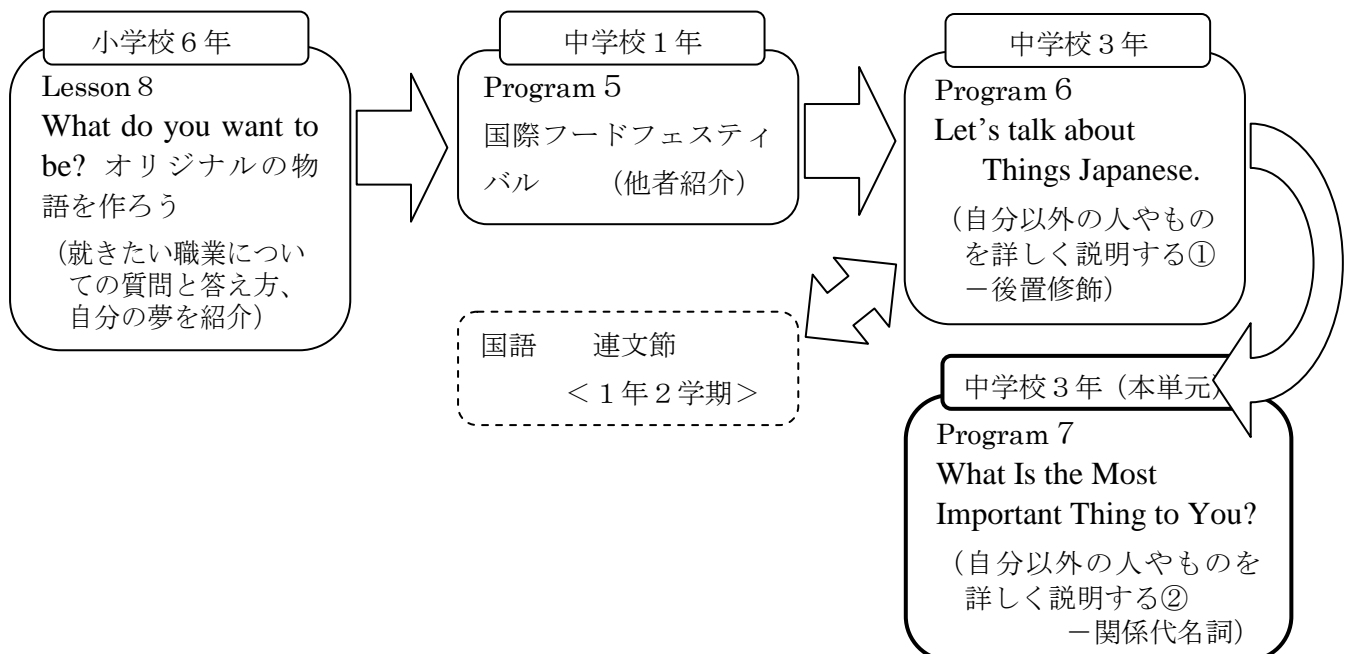
(3) 指導について

「場のつながり」としては、生徒が日本語で発表する際の文末表現(話形)に注意して話させたい。

「教材のつながり」として、本単元は「人やものを説明すること」および「自分の夢を語ること」として、<小学校6学年 lesson 8→中学校1学年 Program 5→中学校3年生 Program 6>の延長線上にある。既習学習は、他者紹介として位置づけられているが、前単元から「人やものを詳しく説明する表現」である点を強調して指導にあたりたい。

「人のつながり」としては、「自分の考えをもつ」場面として、具体的な場面をもとに英文を作る場面を、「互いの考えを交流する」場面として、ペアワークや学級での発表を通して、自分以外の人の考えや表現の仕方に触れる場面を、「互いの考えのよさに気づく」場面として、ペアワークなどで級友の発表を聞き、友達の表現の豊かさやすばらしさを感じさせ、自分に返す場面を設定している。英語はコミュニケーションの手段であることから、新出・既習表現を活用しながら、基礎的な学力の定着と仲間との交流の楽しさを生徒に実感させる授業を組んでいきたい。

5 単元の系統と他教科との関連



6 単元の指導計画（8時間扱い）

（1）単元オリエンテーション

セクション1 関係代名詞 **who**（主格） 1時間（本時 1 / 8時）

（2）セクション1 読み取り 1時間

（3）セクション2 関係代名詞 **which**（主格） 1時間

（4）セクション2 読み取り 1時間

（5）セクション3 関係代名詞 **that**（主格） 1時間

（6）セクション3 読み取り 1時間

（7）Speaking 5 買い物④ 1時間

（8）単元のまとめと評価 1時間

7 本時について

（1）目標

①関係代名詞 **who** を用いた言語活動に、積極的に取り組む。＜関心・意欲・態度＞

②関係代名詞 **who** を用いた文の構造を理解しながら、自分の将来の夢を書く。＜知識・理解＞

（2）「自分の考えをもつ^自」「互いの考えを交流する^交」「お互いの考えのよさに気づく^気」場面

本時の「自分の考えをもつ」場面として、自分になりたい高校生・職業の姿を英文にする場面を、「互いの考えを交流する」場面として、ペアワークや学級での発表を通して、自分以外の人の考えや表現の仕方に触れる場面を、「互いの考えのよさに気づく」場面として、ペアワークなどで級友の発表を聞き、友達の表現の豊かさやすばらしさを感じさせ、自分に返す場面を設定している。

（3）展開

段階	学習活動	場面	○指導上の留意点 ●評価の観点（方法）
導入 5分	1 挨拶 2 本単元のオリエンテーションを聞き、単元のゴールを知る。 3 学習課題を知る。 関係代名詞 who を使って、自分になりたい職業について説明する英文を作ろう。		○指導上の留意点 ●評価の観点（方法） ・既習表現を用いて挨拶を行い、基礎基本の定着を図る。 ・PROGRAM 7の全体像を伝え、本時の位置づけをとらえさせる。 ・様々な職業について触れながら、本時の学習の見通しを持たせる。
展開	4 関係代名詞 who の導入 5 口頭練習		○絵や写真を使い、意味や構造を理解させる。 ○関係代名詞を使うと、二つの単文を複文で表すことができることを指導する。 ・1年後、自分になりたい高校生の姿を口頭で練習し、学習課題へつなげる。 ○現時点で将来の夢が決まっていない生徒が多いため、一度高校についてイメージさせることで、職業について考えやすくしたい。

35分	6 自分がなりたい職業について説明する英文を書く。	自 交 気	●関係代名詞 who を使った言語活動に、積極的に取り組む。(発表・観察)
	7 発表		●関係代名詞 who を用いた文の構造を理解しながら、自分の将来の夢を書く。(発表・作文) ○ペアで発表させ、同じテーマに関する複数の表現に触れさせる。
終末 5分	8 学習のまとめ		○導入場面で提示した英文を再度読み、自己評価を記入して、本時学習のまとめとする。
	9 次時の学習内容の確認		・授業の評価をし、次時の内容を知らせる。

(4) 板書計画

Friday, November 7th, Sunny

学習課題 関係代名詞 **who** を使って、自分がなりたい職業について説明する英文を作ろう。

言語活動の図と英文

見通し

医者 a doctor
 多くの人々を助けられる 医者 a doctor **who** can help many people

まとめ I want to be a doctor **who** can help many people.
 私は医者になりたい 多くの人々を助けられる
 どういう人かというと

自分の考え **交流**

(生徒の英作文) _____
